

5月度学術講演会

日 時	5月20日(土) 午後2時
演 題	日常診療でよくみる整形疾患 これって手術? ～腰痛から骨粗鬆症性疾患まで～
講 師	大阪急性期・総合医療センター 整形外科 副部長 鹿野 博亀 先生
出席者数	24名
共 催	大正富山医薬品株式会社
情報提供 担 当	経皮吸収型消炎鎮痛剤 ロコアテープの有効性・安全性 富永良子

大阪急性期・総合医療センターでは関節、脊椎、上下肢、手の外科を行っている。

整形外科の手術について

手術適応になる患者さんは、「1. 臨床症状と画像診断が一致しており、手術によって症状の改善が予測される」、「2. 患者本人が手術に同意」。適応外は「1. 完治することを求める方」、「2. 麻酔科から断られた方」、「3. 禁煙を守れない方」と考えている。

脊椎・脊柱

頭蓋骨の直下より尾骨まで。椎骨、椎間板が重なり体を支える。神経、内臓を保護する。

症状 1 骨や椎間板の痛み：腰痛症、圧迫骨折、化膿性脊椎炎など

腰痛は日本人の8割が経験する。そのうち原因が特定できるのは15%である。加齢や過度の運動などで骨や椎間板が変形・変性し、さらに負担のかかる姿勢や動作で起こり、1-2週間で軽快することが多い。強い痛み、下肢の痺れ、麻痺などがある場合は専門的な治療の対象。

病状 2 神経症状すなわち神経の圧迫による痛みや痺れ、麻痺：脊柱管狭窄症、頸髄症、椎間板ヘルニアなど

圧迫、障害されている神経により症状が異なる。圧迫の程度によって症状の程度が異なる。脊髄麻痺がみられる場合は、早急に対応が必要。

脊髄症状：両側の痙攣性麻痺

馬尾症状：両側の弛緩性麻痺

神経根症状：片側の痛み、痺れ

腰痛は自覚症状で最多。

加齢や過度の運動などで、骨や椎間板が変性・変形、さらに負担のかかる姿勢や動作で起こり、1-2週間で軽快することが多い。

強い痛み、下肢の痺れ、麻痺などがある場合は専門的治療の対象。

骨粗鬆症性 脊椎圧迫骨折

骨粗鬆症：骨量が減り、骨が脆くなる。閉経後の女性に多い。薬物による副作用のこともある。骨折は胸腰椎移行部に多い。

症状は腰痛、遅発性麻痺。

治療は保存療法（コルセット装着）、麻痺などの症状がある場合は手術適応。

神経圧迫による頑固な症状（四肢の疼痛、しびれ、筋力低下など）や痛みが強く日常生活に支障がある場合、保存治療で改善しない場合、脊髄症状や馬尾症状の急激な悪化を認めるときは、手術を勧める。大阪大学整形外科脊椎グループの手術統計結果によると、運動機能は回復しやすいが感覚機能は改善しにくいことがわかった。しびれは手術しても変化なかった。患者背景による手術成績の差は、高齢、肥満、喫煙者、糖尿病患者、オピオイド使用歴のある患者、うつ病患者で手術成績は落ち、患者満足度は低かった。